

平成23年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	死体検案講習会費		担当部局庁	医政局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成17年度～		担当課室	医事課		課長:田原克志	
会計区分	一般会計		施策名	IV-1-3 医療従事者の質の向上を図る			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	平成23年4月「犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方に関する研究会」最終とりまとめ「犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方について」			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「死体検案」業務の充実を図るため、日本法医学会の協力の下、日頃、検案実務に従事する機会が多い警察医、一般臨床医を対象に、検案業務に関する講習会を開催し、検案能力向上を目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	警察医や一般臨床医で、検案に従事する機会が多い医師を対象として検案業務に関する講習会を開催。 【講習期間及び内容】 ①座学2日間・・・死体解剖保存法などの法律講義、検案制度の国際比較、死体検案書の書き方、検案の実施方法等 ②監察医務院や各大学法医学教室などにて見学実習(スクリーニング)。1検案あたり2時間程度の見学実習を3回程度経験 ③座学1日間・・・家族への対応についての演習(グループワーク)、見学実習を受けての症例報告						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	6	6	6	5	15
		補正予算					
		繰越し等					
		計	6	6	6	5	15
	執行額	4	2	2			
執行率(%)	66.7%	33.3%	33.3%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	解剖率 <small>※死体取扱数にしめる解剖総数(司法解剖数+行政解剖数)の割合 ※警視庁刑事局調べ</small>	成果実績	%	9.7	10.1	11.2	前年度以上
		達成度	%	—	104.1	110.4	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	受講者数	活動実績 (当初見込み)	人	143	124	136	— (100) (100)
単位当たりコスト	14,705(円/受講者1人あたり)		算出根拠	平成22年度執行額/平成22年度受講者数			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	3.3	9.9	受講者数や上級者コース設置に伴う増			
	委員等旅費	0.3	1.0				
	庁費	1.4	3.6				
	職員旅費	0.0	0.1				
計	5.0	14.6					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>平成23年4月に警察庁における研究会最終とりまとめ「犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方について」において、当該講習会の定員を増員し、併せて研修内容の充実を図ることが提言されており、今後、更に需要が増大することとなる。 このため、予算額と執行額の乖離については、その原因を分析しつつ、今後の需要の増大も踏まえ、予算の要求額の精査を行うこととする。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	<p>本事業の必要性は概ね妥当であり、予算と執行の乖離により、平成23年度に予算の縮減を図っているが引き続き効率的な執行に努めること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>平成24年度概算要求においては、今後の需要の増大が見込まれるが、効率的な執行に努めることとし、増額となる予算額を可能な限り抑制した。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p></p>			

厚生労働省
2百万円

〔「死体検案」業務の充実を図るため、警察医、一般臨床医を対象に、検案業務に関する講習会を開催し、検案能力向上を目的とする。〕



〔執行計画に基づき、予算を示達〕

A. 国立保健医療科学院
1.1百万円

〔検案実務に従事する機会が多い警察医、一般臨床医を対象とした死体検案講習会の実施。〕

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

【謝金】

B. 講師(50人)
0.8百万円

〔死体検案講習にかかる講師の謝金〕

【旅費】

C. 講師(15人)
0.2百万円

〔死体検案講習にかかる講師の旅費〕

D. 事務費
0.1百万円

〔死体検案研修見学実習費〕

A. 国立保健医療科学院			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
謝金	研修講師謝金	0.8			
旅費	研修講師旅費	0.2			
庁費	死体検案研修見学実習費	0.1			
計		1	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0.0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立保健医療科学院	死体検案講習会の実施	1.1		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	死体検案講習会の研修謝金	0.08		
2	個人B	死体検案講習会の研修謝金	0.06		
3	個人C	死体検案講習会の研修謝金	0.04		
4	個人D	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
5	個人E	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
6	個人F	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
7	個人G	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
8	個人H	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
9	個人I	死体検案講習会の研修謝金	0.03		
10	個人J	死体検案講習会の研修謝金	0.02		

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	個人A	死体検案講習会の委員旅費	0.052		
2	個人B	死体検案講習会の委員旅費	0.044		
3	個人C	死体検案講習会の委員旅費	0.033		
4	個人D	死体検案講習会の委員旅費	0.021		
5	個人E	死体検案講習会の委員旅費	0.013		
6	個人F	死体検案講習会の委員旅費	0.005		
7	個人G	死体検案講習会の委員旅費	0.004		
8	個人H	死体検案講習会の委員旅費	0.004		
9	個人I	死体検案講習会の委員旅費	0.002		
10	個人J	死体検案講習会の委員旅費	0.002		